

○事業所名	ドリームズ・21st 津・セノパーク校		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 18日		～ 令和7年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	90	(回答者数) 55
○職員評価実施期間	令和6年 12月 18日		～ 令和7年 2月 7日
○職員評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもたちの成長に応じた学習・パソコンレッスンをしている。外部の漢字検定・パソコン検定だけでなく、校舎独自の検定も実施しており、モチベーションアップにつながっている。	漢字検定を受験されるお子様には、学習時間の一部を漢検学習時間として設定している。また必要に応じて宿題をお渡ししており、保護者様と連携して取り組んでいる。 パソコンレッスンは、成長に応じたプログラムを用意し、校舎独自の検定を行っている。検定合格後は表彰状をお渡しして、モチベーションアップにつながっている。	パソコンレッスンについては、毎週の研修を通じて、職員の技術向上を図り、より良い支援へとつなげていく。
2	定期的に面談を行い、保護者様からお子様の状況・支援のご要望をお伺いする機会を設けている。	半年に1回、個別懇談会を行い、懇談への参加が難しい保護者様には、アセスメントシートのご記入をお願いしている。懇談会の内容は、朝礼や議事録で全職員に共有し、日々の支援に活かしている。	個別懇談会やアセスメントシートだけではなく、電話などで保護者様との情報共有を引き続き行っていく。
3	お子様の通所について、イベントやパソコンレッスンを楽しみに行っている、とのご意見をいただいた。	長期休み・土曜日のイベントは、職員で相談して、調理・工作・お出かけ・SSTなど、バランスを見て決めている。 また「わくわくポイントカード」という取り組みを行い、こどもたちは、ポイント数に応じた景品交換を楽しみにしている。	イベントの内容を決めるにあたり、こどもたちからの意見も取り入れて、新しいイベント内容も考えていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設のバリアフリー化について、車椅子を使用されている方がいたら、2階に上がるのは難しいというご意見をいただいた。また、階段に手すりはあるが、特に小さいお子様には、見守りと声かけを行っている。	車椅子を使用されるご利用者様がいなかったため、現状のままとなっていた。	事業所には、小学1年生～高校3年生のお子様のご利用されており、1階と2階の教室に分かれて活動を行っている。現在、小学生が上の階を利用しているので、中高生と教室を入れ替えることも検討する。今後、車椅子を使用するお子様がみえた際には、1階で活動ができるように、教室・人員の配置を考えていく。
2	非常時の対応について「わからない」という回答がいずれも10件以上あり、保護者様への周知が必要である。	契約時の説明以降、事故や緊急時の対応について、保護者様にお伝えする機会がなかったためと考えられる。	昨年の台風接近の際には、警報が出た際の対応について、保護者様からご質問をいただいた。それに伴い、台風接近時の対応について保護者様へ連絡を行った。今後、事前に予想される災害・積雪に対しては、緊急時の対応を改めて連絡していく。
3	活動内容の発信について、保護者懇談や送迎時に情報共有をすることはあっても、全体に向けた通信や発信はできていない部分もあった。	ホームページやSNSの活用は、人員や継続した更新が難しいため、実施に至らなかった。	イベントや避難訓練中の写真を撮影し、LINEにて保護者様へ活動中のお子様のご様子や、内容をお伝えしていく。